



2027年3月期 第1四半期

(2026年4月 - 2026年6月)

決算説明資料

2026年8月5日

株式会社ストライダーズ

〔東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード 9816〕

目次

01	第1四半期業績(全体)	P.07
02	セグメント別業績	P.12
03	Appendix	P.27

エグゼクティブ・サマリー

01 戦略的減収のなかで増益を確保

売上高1,661百万円(前年同期比△14.4%)。倉敷ロイヤルアートホテル譲渡と不動産売買事業の選択と集中による戦略的減収。一方で営業利益55百万円(+18.8%)、経常利益62百万円(+46.4%)と増益を確保。

02 通期予想に対して順調な進捗

営業利益は通期予想200百万円に対し進捗27.7%、経常利益は31.3%。四半期均等ペース25.0%を上回るペースで推移。

03 財務基盤はさらに強化

自己資本比率50.9%→51.2%。現預金2,842百万円。成長投資に向けた資金余力を確保。

04 ポートフォリオ再編を完了

倉敷ロイヤルアートホテルの譲渡とホテル・アローレ(加賀)の取得を完了。成田・加賀・熊本の三拠点体制で地域創生モデルを加速。

会社概要

社名	株式会社ストライダーズ Striders Corporation
設立	1965年2月
資本金	1,677百万円
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場(証券コード:9816)
代表者	代表取締役社長 早川 良太郎
本社所在地	東京都中央区日本橋室町4-6-2
事業セグメント	不動産事業 / ホテル・地域創生事業 / 投資事業

経営体制

CORPORATE GOVERNANCE

2026年6月開催の第62期定時株主総会において、社外取締役2名が新たに就任しました。取締役6名のうち3名が独立社外取締役です。

社内取締役 3名

早川 良太郎 取締役社長(代表取締役)・CEO

2008年4月 オリックス株式会社 入社
2014年6月 当社 取締役経営企画部長
2015年6月 Striders Global Investment Pte.Ltd. 取締役
2018年1月 当社 代表取締役社長(現任)
2020年6月 成田ゲートウェイホテル株式会社 代表取締役(現任)

早川 良一 取締役会長

1977年4月 株式会社日本長期信用銀行(現SBI新生銀行)入行
2007年2月 当社 取締役
2009年6月 当社 代表取締役社長
2018年1月 当社 代表取締役会長
2025年6月 当社 取締役会長(現任)

宮村 幸一 常務取締役

1999年4月 ユトー株式会社 入社
2012年6月 当社 取締役
2014年6月 株式会社トラストアドバイザーズ 代表取締役(現任)
2019年6月 当社 常務取締役(現任)
2025年12月 株式会社日本橋TAKUMI 取締役(現任)

独立社外取締役 3名

村瀬 晶久 社外取締役 監査等委員

1991年4月 株式会社日本長期信用銀行(現SBI新生銀行)入行
1995年10月 郵政省(現総務省)出向 通信政策局地域通信振興課 主査
2000年3月 株式会社ASK PLANNING CENTER 経営企画室長
2023年6月 当社 常勤監査役
2024年6月 当社 社外取締役 監査等委員(現任)

保科 眞智子 社外取締役 監査等委員

1995年4月 株式会社伊勢丹 入社
2018年1月 一般社団法人伊万里再生プロジェクト 代表理事(現任)
2018年5月 茶道裏千家 教授(現任)
2024年4月 上智大学 非常勤講師(現任)
2026年6月 当社 社外取締役 監査等委員(現任)

安藤 美奈 社外取締役 監査等委員

1999年4月 ドイツ証券会社 入社
2001年12月 KPMG FAS 入社
2008年4月 東京藝術大学大学院美術研究科 非常勤講師(現任)
2024年2月 株式会社KANREI WORKS 代表取締役(現任)
2026年6月 当社 社外取締役 監査等委員(現任)

※ 略歴は当社ウェブサイト「役員紹介」に基づく主要な経歴の抜粋です。社外取締役はいずれも監査等委員です。

事業構成

REAL ESTATE

不動産事業

レジデンス事業／家賃保証／リフォーム

1Q 売上高(百万円)

1,388 84%

トラストアドバイザーズ・日本橋TAKUMI

HOTEL

ホテル・地域創生事業

ホテルの保有・運営／地域創生・観光

1Q 売上高(百万円)

266 16%

成田ゲートウェイホテル・ホテルアローレ

INVESTMENT

投資事業

アジア圏を中心とした投資・ファンド運営

1Q 売上高(百万円)

4 0%

SGI・Omusubi Capital・M&Aグローバル・パートナーズ

01

CONSOLIDATED RESULTS

第1四半期業績(全体)

FINANCIAL HIGHLIGHTS

ファイナンシャル・ハイライト

連結売上高

1,661 百万円

前年同期比 $\Delta 14.4\%$

連結営業利益

55 百万円

前年同期比 $+18.8\%$

連結経常利益

62 百万円

前年同期比 $+46.4\%$

自己資本比率

51.2 %

前期末 50.9% $\rightarrow +0.3\text{pt}$

2027年3月期 第1四半期 連結損益サマリー

CONSOLIDATED P&L

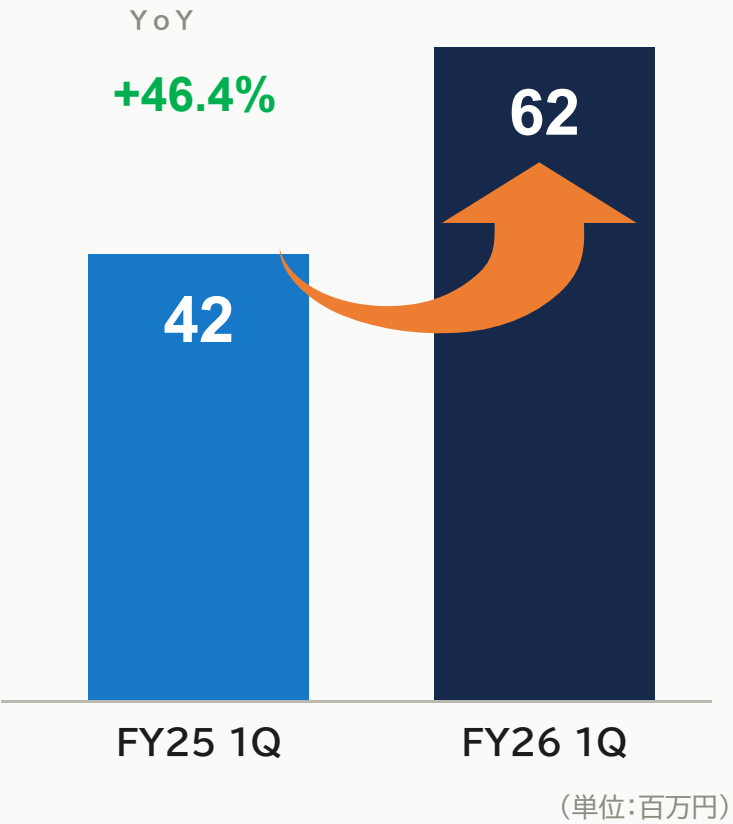


倉敷ホテル譲渡と不動産売買事業の選択と集中により減収。一方、収益構成のシフトと全社費用の圧縮で、営業利益 +18.8%・経常利益 +46.4% と増益を確保。

(単位:百万円)	FY25 1Q 前年同期実績	FY26 1Q 当第1四半期実績	増減	増減率
売上高	1,940	1,661	△279	△14.4%
営業利益	46	55	+8	+18.8%
営業利益率	2.4%	3.3%	+0.9pt	—
経常利益	42	62	+19	+46.4%
四半期純利益	23	18	△5	△21.2%

※ 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益

経常利益 推移



2027年3月期 第1四半期 連結貸借対照表 推移

BALANCE SHEET

2026年3月期 期末

自己資本比率 50.9%

連結

(百万円)



流動負債
1,085

固定負債
1,617

純資産
2,814

2027年3月期 1Q末

自己資本比率 51.2%

連結

(百万円)



流動負債
1,131

固定負債
1,510

純資産
2,788

総資産

- ✓ 1Q末の総資産は5,430百万円(前期末比 △86百万円)
- ✓ 倉敷ホテル譲渡とホテル・アローレ取得による資産入替
- ✓ 現預金は2,011→2,842百万円へ +830百万円
- ✓ 固定資産は1,954→1,898百万円へ減少

負債

- ✓ 負債合計は2,641百万円(前期末比 △60百万円)
- ✓ 流動負債 1,085→1,131、固定負債 1,617→1,510百万円
- ✓ 有利子負債比率58.0%(社内基準80%以下)を維持
- ✓ 現預金が有利子負債を上回るネットキャッシュ状態を継続

純資産

- ✓ 純資産は2,788百万円(前期末比 △25百万円)
- ✓ 自己資本比率は50.9%→51.2%へ +0.3pt 改善
- ✓ 四半期純利益18百万円による増加と配当44百万円により減少

株主還元

SHAREHOLDER RETURNS

6期連続となる年間5.0円の配当を継続。あわせて2026年3月末を基準日として株主優待制度を再開しました。

配当

2027年3月期 年間配当予想

5.0 円/株

継続性

6期連続で年間5.0円を継続

株主優待の内容

保有株式数	優待ポイント
100株以上	1,000 円相当
500株以上	2,000 円相当
1,000株以上	3,000 円相当
10,000株以上	5,000 円相当

その他の優待

賃貸物件の仲介手数料割引 ― 自社管理物件 100%割引／その他 30%割引

特別優待（ZIPAIR Tokyo）

10万ポイント（ZIPAIR航空券に転換可）を半期毎10名様・年間20名様に抽選で進呈

優待ポイントのご利用の流れ

株主様

保有株式数に応じて優待ポイントを進呈



モルトベーネ

株主優待専用サイト（メイン）



北陸マルシェ

加賀・北陸エリアの地域産品



Narita Select Journey

成田・千葉エリアの地域産品

ポイント交換を通じて、株主様のご利用が地域経済への還流につながります

※ 配当・優待の基準日は毎年3月31日と9月30日。詳細は当社ホームページと優待に関するIRをご参照ください。

02

SEGMENT RESULTS

セグメント別業績

セグメント名称の変更

SEGMENT RENAMING

事業戦略をより明確に表現するため、当第1四半期よりセグメント名称を変更しました。

変更前

ホテル事業



変更後

ホテル・地域創生事業

変更の背景

成田・加賀・熊本の3拠点において、ホテル宿泊業にとどまらず、地域の活性化に資する事業を展開していくため。

成田

成田ゲートウェイホテル

千葉県成田市 / 約307室

エアポート×インバウンドの玄関口。シャトルバスの自社運行、GATE CAFE直営、地域製品のEC化により、宿泊外の収益と地域との接点を広げています。

加賀

ホテル・アローレ

石川県加賀市 / 約130室(2026年5月取得)

温泉リゾート×MICEのハブ施設。地域観光資源の磨き上げと、成田・熊本との相互送客により新たなエコシステムを形成します。

熊本

ヴィラ開発・地域連携

熊本県 / 開発・連携を推進中

地域コミュニティや地元産業と連携し、ホテル単体ではなく地域経済圏として価値を生み出す場として位置づけています。

※ セグメント名称の変更であり、セグメントの区分方法および過年度の数値に変更はありません。

セグメント別業績サマリー

不動産は減収増益 | ホテルは譲渡影響で減収減益 | 全社費用は10百万円改善

REAL ESTATE

不動産

売上高(百万円)

1,612 → **1,388**

営業利益(百万円)

82 → **92**

+10百万円 / +12.4%

売買案件の期ズレによる減収を、賃貸管理の安定収益とスプレッド改善が補い増益。

HOTEL

ホテル・地域創生事業

売上高(百万円)

328 → **266**

営業利益(百万円)

29 → **22**

△7百万円 / △25.2%

倉敷ホテル譲渡に伴う一時的な費用の発生が主因。成田ゲートウェイホテルは堅調に推移。

INVESTMENT

投資

売上高(百万円)

0 → **4**

営業利益(百万円)

△5 → **△9**

△4百万円

Omusubi Venture Fundの立ち上げ・シンガポール拠点運営に伴う先行費用。

REAL ESTATE

不動産セグメント

不動産事業（2027年3月期 第1四半期）

REAL ESTATE BUSINESS

不動産事業

売上高

1,388 百万円

YoY Δ 13.8%

営業利益

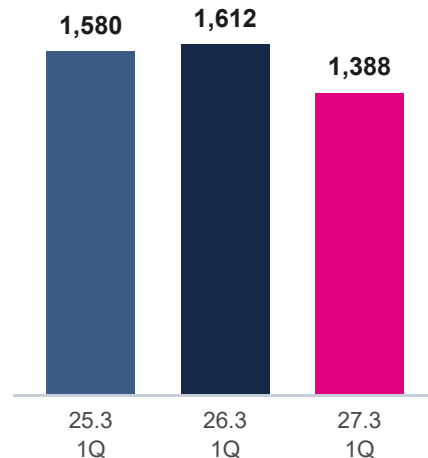
92 百万円

YoY +12.4%

業績推移（FY24 1Q vs FY25 1Q vs FY26 1Q）

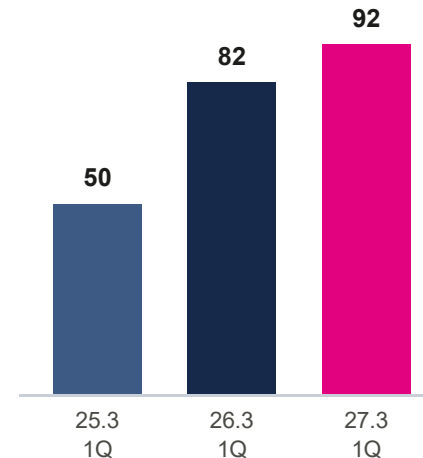
1Q セグメント売上推移

（百万円）



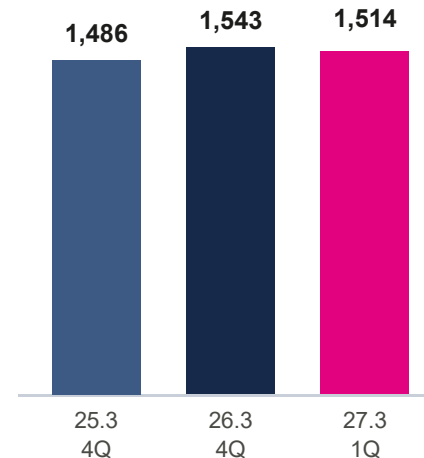
1Q セグメント利益推移

（百万円）



セグメント資産推移

（百万円）



主要トピックス

✓ レジデンス・賃貸物件の高稼働による安定収益の確保

✓ 市場環境に応じた機動的な資産入替によるポートフォリオ最適化

※ セグメント資産は各期末時点。27.3 1Q は当第1四半期末の数値。

不動産事業(事業別売上構成)

REAL ESTATE BUSINESS

レジデンス事業 | 借上

売上高

1,098 百万円

YoY +0.2%

レジデンス事業 | その他

売上高

281 百万円

YoY +9.5%

不動産家賃保証事業

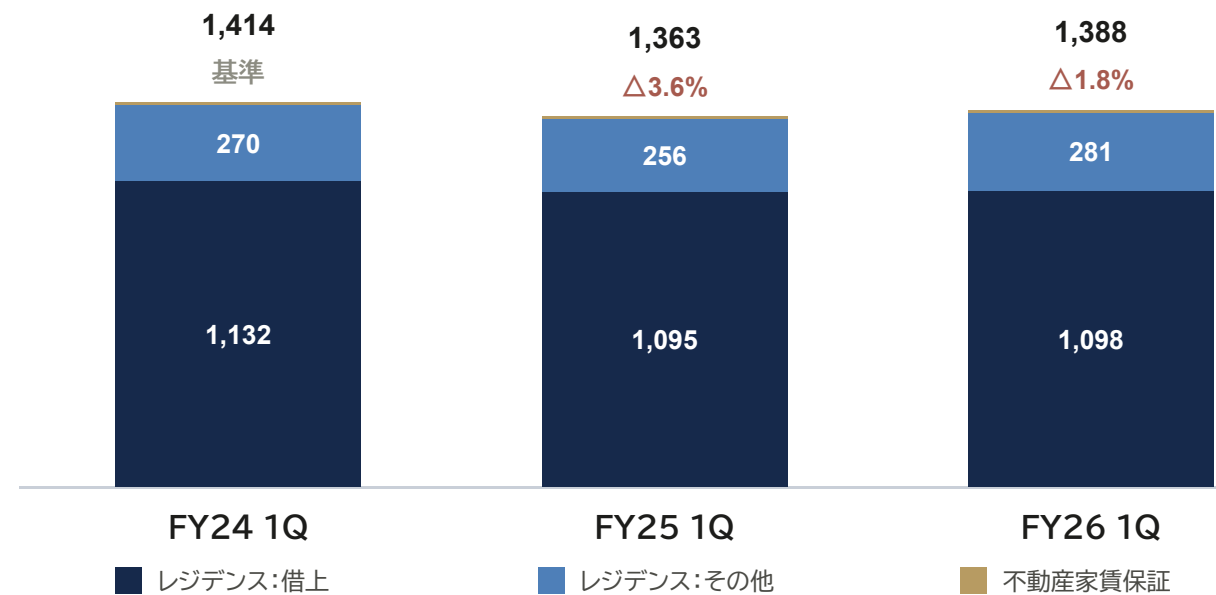
売上高

9 百万円

YoY Δ 13.8%

1Q 事業別売上構成 推移

(百万円)



不動産売買事業については、比較可能性を考慮し、本紙では除外して表示しております。

主要トピックス

✓ 借上は前年同期比 +0.2% と横ばいで、安定収益基盤を維持 ✓ その他が +8.5% と伸長し、3事業計は前年同期比 +1.8%

不動産事業(管理戸数の推移と収益性改善)

REAL ESTATE BUSINESS

不動産セグメント 通期KPI

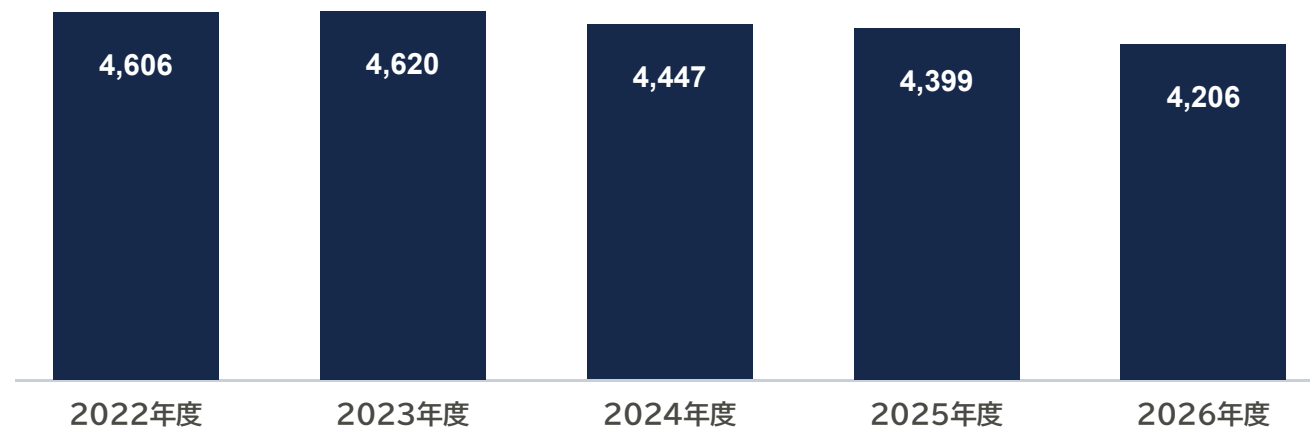
借上 | 管理戸数

4,155戸

借上 | 稼働率

98.8%

借上 管理戸数の推移(戸)



低採算物件の整理や市場賃料上昇を背景に、管理戸数は減少する一方、スプレッド率は改善

低採算物件の整理

- ・低収益案件の退出・再編を実施
- ・ポートフォリオの質を重視

売却による管理離れ

- ・オーナーによる物件売却に伴い一部管理契約が終了
- ・一部案件は集金代行へ移行

市場賃料上昇による改善

- ・市場賃料の上昇を背景に既存案件の収益性が改善

IT投資による効率化

- ・物件管理システムへ投資
- ・属人的業務を削減し運営効率を改善

不動産事業 成長戦略

01 安定したレジデンス基盤

居住用賃貸を中心としたポートフォリオが高稼働を維持。安定的なキャッシュフローが成長投資の原資を創出。

02 新規事業「日本橋TAKUMI」の本格稼働

中古マンションの仕入からリフォーム・販売までを一貫して手掛けるバリューアップ事業。第62期に設立し体制整備を加速。

03 機動的な資産入替

市場動向を見極めた保有資産の入替を継続。ポートフォリオの質を高め、資本効率(ROE)の改善に寄与。

中期方針:不動産売買を戦略的に整理し、賃貸管理を基盤としたリフォーム・不動産周辺領域を強化

リフォーム事業「日本橋TAKUMI」収益モデル

中古マンション仕入



バリューアップ(TAKUMIブランド化)



高付加価値販売

NEW 建設業許可を取得(2026年7月)

株式会社日本橋TAKUMI / 建築工事業(一般建設業)
東京都知事 許可(般-8)第162447号
有効期間 2026年7月22日 ~ 2031年7月21日

HOTEL & REGIONAL DEVELOPMENT

ホテル・地域創生セグメント

ホテル・地域創生事業（2027年3月期 第1四半期）

HOTEL & REGIONAL DEVELOPMENT

ホテル・地域創生事業

売上高

266 百万円

YoY Δ 18.6%

営業利益

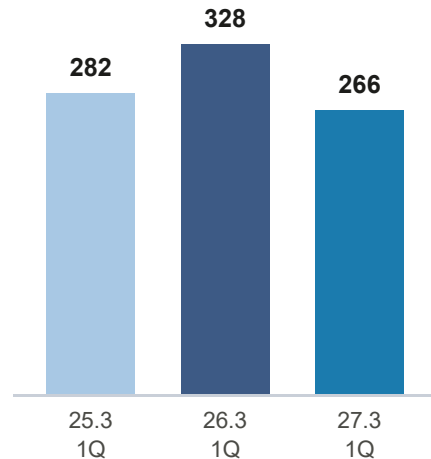
22 百万円

YoY Δ 25.2%

業績推移（FY24 1Q vs FY25 1Q vs FY26 1Q）

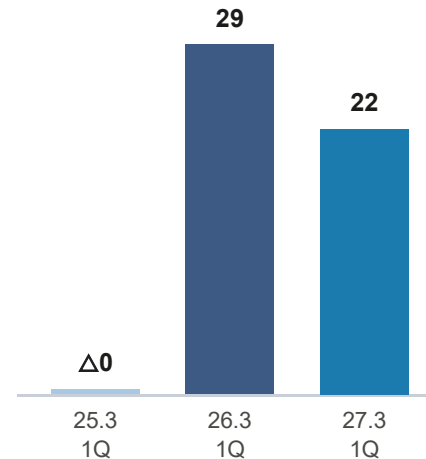
1Q セグメント売上推移

（百万円）



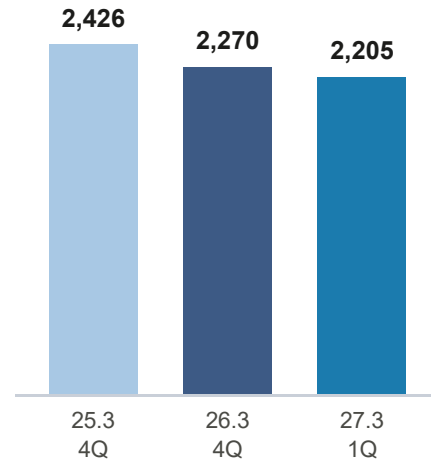
1Q セグメント利益推移

（百万円）



セグメント資産推移

（百万円）



主要トピックス

✓ 商品力強化と地域連携の推進による集客力・主要KPIの向上

✓ 事業運営の内製化による収益構造の改善と提供価値の最大化

※ セグメント資産は各期末時点。27.3 1Q は当第1四半期末の数値。

ホテル・地域創生事業(KPI／成田ゲートウェイホテル)

HOTEL & REGIONAL DEVELOPMENT

1Q 平均ADR

7,582 円

YoY +6.56%

1Q 平均OCC

81.5 %

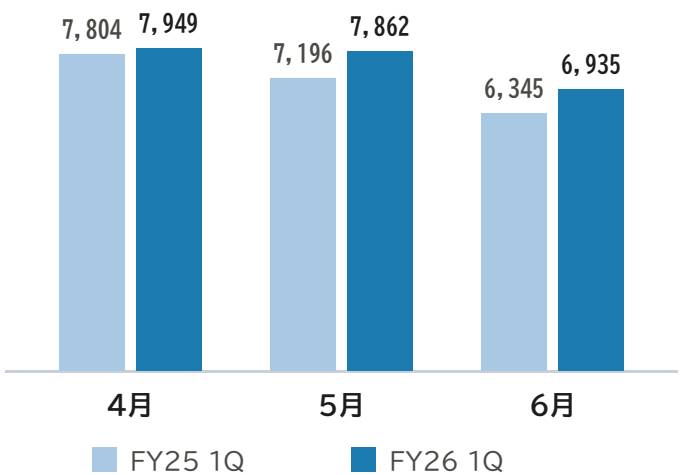
YoY +4.1pt

1Q 平均RevPAR

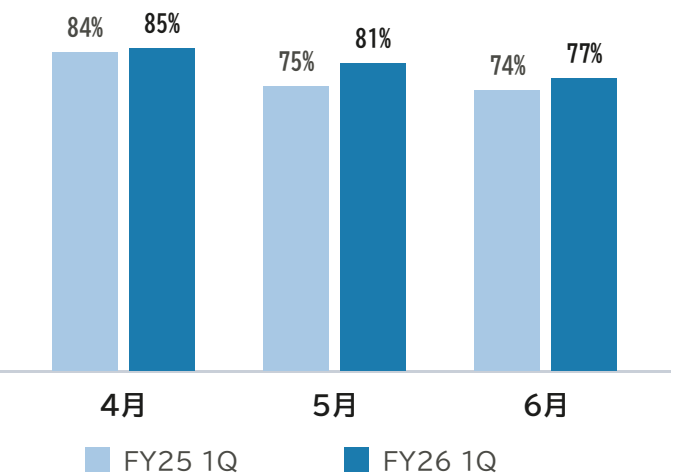
6,194 円

YoY +10.7%

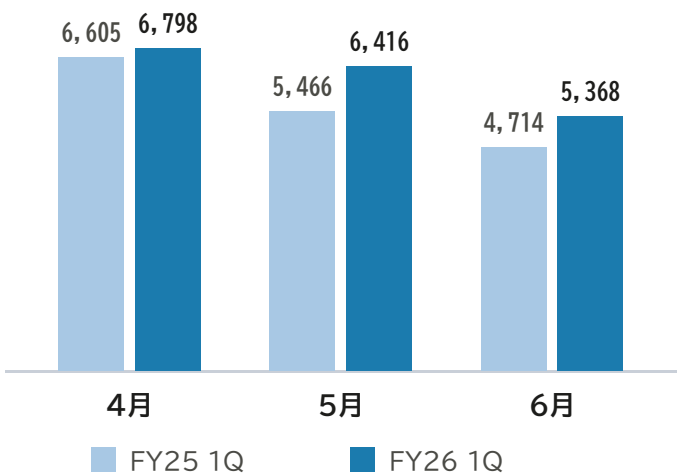
ADR 推移(4-6月)(円)



OCC 推移(4-6月)



RevPAR 推移(4-6月)(円)



※ ADR＝平均客室単価(客室売上÷販売客室数)／OCC＝客室稼働率／RevPAR＝販売可能客室1室あたり売上。1Q平均は4-6月各月の平均値。

ポートフォリオ再編の完了

EXIT

譲渡

倉敷ロイヤルアートホテル

- 事業再生の完遂
- 資本効率の改善
- ポートフォリオ最適化



資本再配分

INVEST

取得（土地・建物）

ホテル・アローレ（加賀）

- 温泉リゾート × MICE 戦略
- 成田・熊本との相互送客
- 地域創生モデルの三拠点展開

NEW

東急ホテルズ パートナーホテル加盟

2026年6月1日 効力発生

- ✓ 東急ホテルズ&リゾート株式会社と「パートナーホテル」加盟契約を締結
- ✓ 金沢東急ホテル/JAM福井勝山東急ホテル&リゾート/富山エクセルホテル東急と連携を強化
- ✓ 北陸の周遊型・滞在型観光モデルを構築し、インバウンド需要の分散を推進

実行日

2026年5月1日

取得対象

土地・建物

取得金額

12.5億円

固定資産売却益（百万円）

+804

固定資産圧縮損（百万円）

△657

減損損失（百万円）

△65

※ 特別損益（2026年7月31日開示）：売却益は倉敷ロイヤルアートホテルの不動産譲渡、圧縮損は買換資産への圧縮記帳、減損損失は同事業ののれん未償却残高。

INVESTMENT

投資セグメント

投資事業（2027年3月期 第1四半期）

INVESTMENT BUSINESS

投資事業

売上高

4 百万円

前年同期 0百万円

営業利益

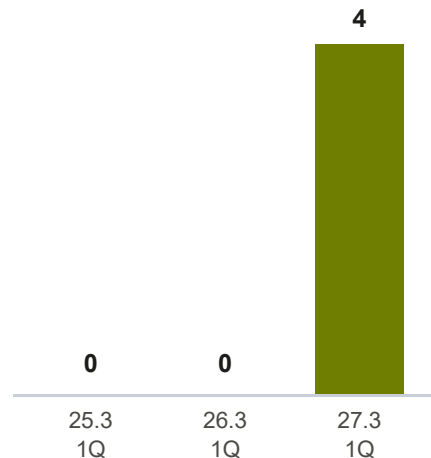
△9 百万円

前年同期 △5百万円

業績推移（FY24 1Q vs FY25 1Q vs FY26 1Q）

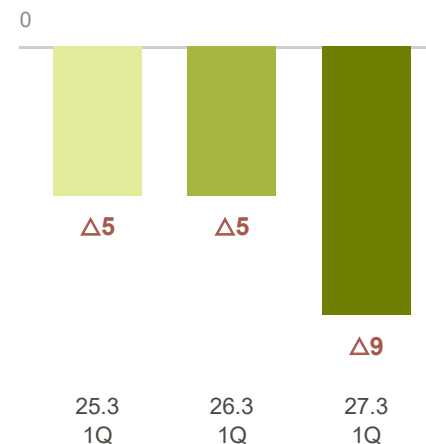
1Q セグメント売上推移

（百万円）



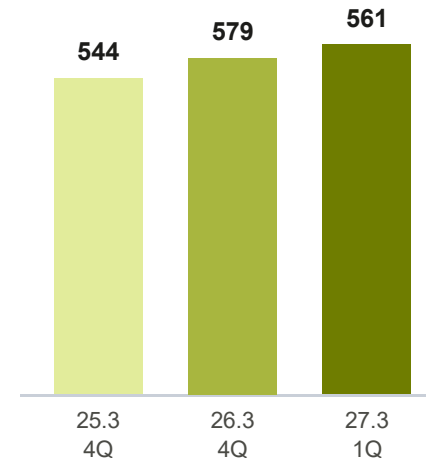
1Q セグメント利益推移

（百万円）



セグメント資産推移

（百万円）



主要トピックス

✓ 投資先のEXIT（キャピタルゲイン）の実現

✓ Omusubi Venture Fund の運用開始

✓ シンガポール拠点によるアジア展開の強化

※ セグメント資産は各期末時点。27.3 1Q は当第1四半期末の数値。営業損失はファンド組成・拠点運営に伴う先行費用。

投資事業 | 3つの柱とファンド運営

INVESTMENT BUSINESS

投資を通じて日本と世界をつなぐゲートウェイとなり、国境を越えたビジネス連携を促進します

投資事業の 3つの柱

日本からアウトバウンド

東南アジアおよび南アジアにおける8年間のVC・PE投資実績を活かし、日本企業の海外展開を支援するとともに、自社の自己資本を活用した戦略的な投資も行っています。

日本へのインバウンド

シンガポールを拠点とし、不動産およびホテル・地方創生事業という中核事業を活かし、海外からの富裕層、ファミリーオフィス、資産運用会社からの対日投資を促進します。

ファンド運営

ストライダーズ・グループの中核となる専門知識を活用し、外部資金を運用することを目的として、シンガポールにファンド運用プラットフォーム「オムスビ・キャピタル」を設立。



ファンド概要（1号）

OMUSUBI CAPITAL

ファンド名称

Omusubi Venture Fund

投資規模

USD 20M (予定)

投資戦略

ヘルスケア、農業、スマートシティ分野のディープテック系スタートアップへの投資を行い、日本・アジアと世界各国との国境を越えた事業展開に注力。

今後の計画

不動産などの分野における、日本へのインバウンド投資に特化したファンドの設立。

03

APPENDIX

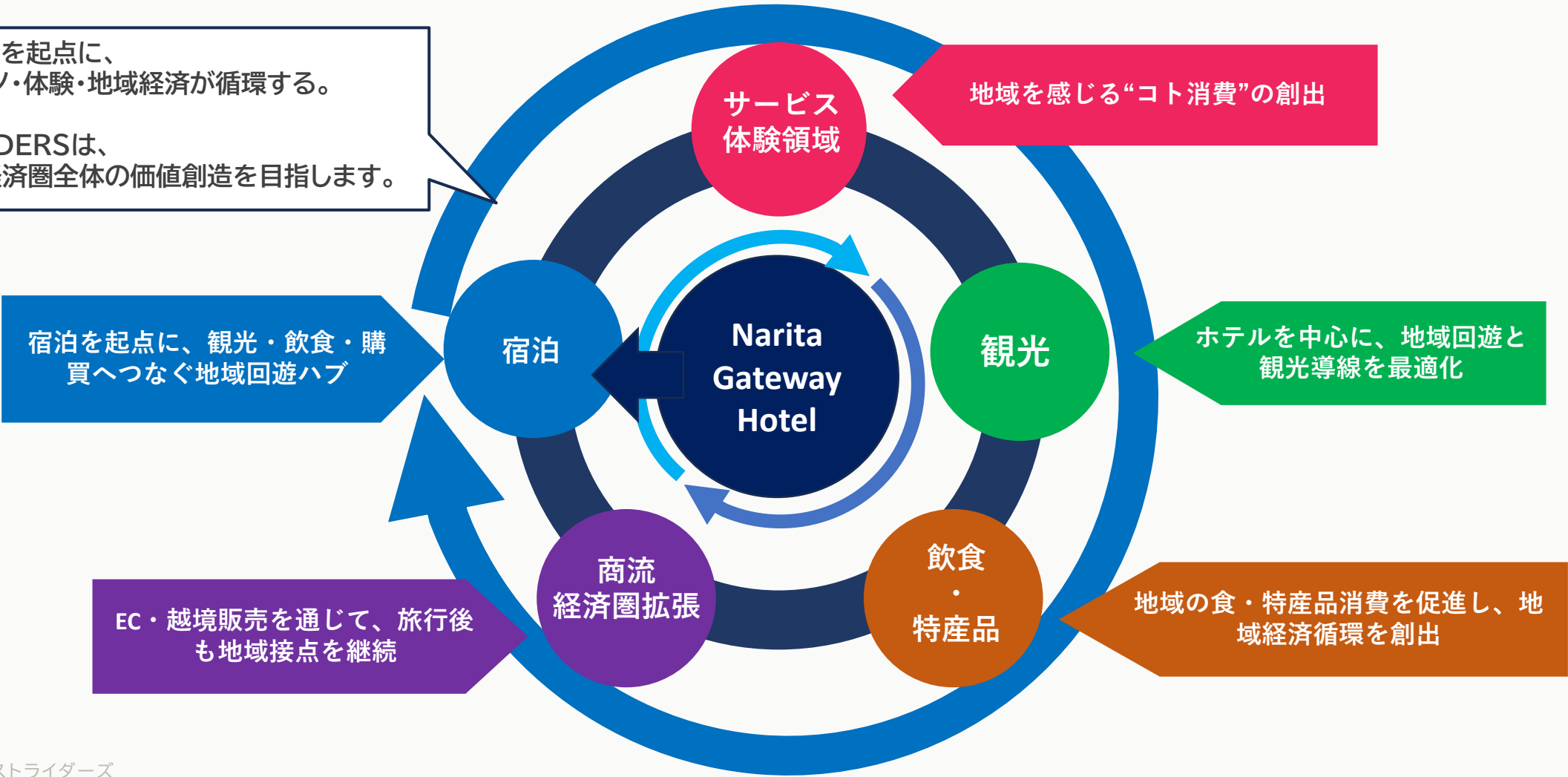
補足資料

ホテル・地域創生 | 成長戦略

HOTEL & REGIONAL DEVELOPMENT STRATEGY

ホテルを起点に、
人・モノ・体験・地域経済が循環する。

STRIDERSは、
地域経済圏全体の価値創造を目指します。



ホテル・地域創生 | 当第1四半期の主な取り組み

KEY INITIATIVES IN 1Q

成田ゲートウェイホテルを拠点に、産学連携・EC・法人需要・地域共創へと取り組みを広げた四半期となりました。

2026.05.13

産学連携

APU寄付講座の課外授業

みらいコンサルティンググループ主催のAPU向け寄付講座に協力。国内外の学生20名がホテルを拠点に、観光・街づくり・地域産業を学ぶフィールドワークを実施。

2026.05.15

EC・地域産品

Narita Select Journey 開設

北総エリアの産品・体験を厳選して国内外へ発信するオンラインセレクトショップ。宿泊以外の収益チャネルと、旅行後も続く地域との接点を構築。

2026.05.26

地域共創

成田事業構想プロジェクト研究

事業構想大学院大学と共催し、ホテルを主会場に第1期が始動。成田・つくばの企業が参加し、地域を“面”で捉えた広域共創と新規事業の創出を推進。

2026.06.03

法人・MICE

TKPとの送客連携を開始

法人研修・会議・MICE需要の取り込みを強化。TKPの法人ネットワークとWeb集客基盤を活用し、宿泊・会議・交通手配のワンストップ提案を展開。

2026.06.19

次世代育成

成田高等学校で特別講義

代表取締役社長 早川良太郎が母校に特別講師として登壇。「成田から、世界へ。」をテーマに起業家精神と地域創生を講義し、生徒の事業案に講評。

その他の継続施策

・庭園・ロビーの価値設計

・シャトルバスの内製化

・ファミリーマート導入

・駐車場・会議室の再活用

※ 各施策の詳細は当社ウェブサイトのニュース・トピックスをご参照ください。

3事業それぞれの、地域創生への貢献

EACH BUSINESS CONTRIBUTES TO REGIONAL REVITALIZATION



※ 3事業はそれぞれ独立して収益を上げながら、いずれも地域創生という同じ目的を共有しています。

主要ホテル拠点

成田ゲートウェイホテル

所在地・客室数 千葉県成田市 / 約307室

主要KPI目安 OCC(稼働率)重視・インバウンド需要の獲得

エアポート×インバウンドの需要母集団。シャトルバス自社運行化やカフェ直営化など内製化による収益最大化を推進する中核拠点。

ホテル・アローレ(加賀)

所在地・客室数 石川県加賀市 / 約130室 ※2026年5月取得

主要KPI目安 ADR(客室単価)重視・MICE／リゾート滞在需要

温泉・リゾート×MICEのハブ施設。地域観光資源の磨き上げと、成田・熊本拠点との相互送客による新たなエコシステムを形成。

熊本拠点

所在地・客室数 熊本県 / ヴィラ開発・連携推進中

主要KPI目安 地域連携数・地域創生プロジェクトの進捗

地方創生・バリューチェーン拡張の実験場。ホテル単体ではなく地域コミュニティや地元産業と連携した地域経済圏での価値創造拠点。

ガバナンス体制

機関設計	監査等委員会設置会社
取締役会構成	取締役6名(うち社外取締役3名)
監査体制	監査等委員 3名
指名・報酬諮問機関	任意の指名・報酬委員会を設置(過半数および委員長を独立社外取締役)
実効性評価	年1回、全取締役・監査等委員を対象にアンケートを実施し実効性を分析・評価
主要委員会	サステナビリティ委員会 / コンプライアンス・リスク管理委員会 等

社外取締役比率50%を確保し、経営の透明性と客観的な監督機能を強化

代表者プロフィール / 経営者の歩み

PRESIDENT'S PROFILE

代表取締役社長

はやかわ りょうたろう

早川 良太郎

少年期を香港で過ごし、多様な文化と価値観に触れる中で、日本と世界を繋ぐことへの関心を育む。

成田高校卒業後に米国カンザス大学に進学し、NCAA Big 12 カンファレンスにて大学野球に打ち込み、チームとして目標に挑む日々が現在の経営姿勢の原点となる。

卒業後、株式会社オリックスに入社し金融・投資業務の基礎を習得。

2014年に株式会社ストライダーズに参画、2018年に代表取締役社長に就任。

「Stride With Challengers」を掲げ、不動産・ホテル・投資の3事業を通じ、日本各地の眠れる資源と世界を結びつける挑戦を続けている。

成田ゲートウェイホテルを起点とした地域創生モデルや、Omusubiベンチャーファンドを通じた次世代起業家の育成にも取り組み、上場企業経営者として社会的課題への発信にも力を注いでいる。



DISCLAIMER

業績見通しに関する注意事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、経営環境の変化等の様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

CONTACT

IR最新情報

<https://www.striders.co.jp/ir/information.html>

IRお問い合わせ

財務経理部 03-6910-8391

お問い合わせフォーム

<https://www.striders.co.jp/contact/contact.html>